

## Topics from within

### AIAA Technical Committee on Communications Systems

編集委員 風神 裕

TCCS委員会は04年9月15日米国ワシントンDCのIntelsat本部にて開催された。出席者は、Dr. E. Asford, Dr. D. Boulanger, Dr. D. Curtin, Dr. D. Durrani, Mr. E. Elizondo, Mr. C. Hoerber, Mr. R. Houston, Ms. E. McGowan, Dr. J. Pelton, Mr. J Sandberg, Dr. C. Cotner, Dr. F. Gargione, 及び、下名。その他、電話にてDr. Helm, Dr. Bousquet, Dr. Butash, Mr. Smith他数名が参加。



Intelsat本部ということもあり、最初に、Intelsat Senior Vice Presidentである Mr. K. Betaharonから挨拶があり、その後、Vice ChairのMr. R. Houstonを議長に選出して、会議開始。

現在のTCCS委員は米国人定員35名に対し31名。米国外は10名(定員無し)。新委員にATRの門脇室長他数名を予定しているとの報告があった。35歳以下の委員はFutronのMs. McGowanのみであり、TCCS委員会活性化の為にも、今後、Associate Memberということで若い人を入れる方針とのこと。

Dr. Peltonから、Dr. Cotner、Dr. Iida、Dr. Peltonの連名にて単行本「Satellite Communications in the 21<sup>st</sup> Century: Trends and Technologies」を発行した旨の紹介があった。この本を利用して、ICSSCのColloquiumで通信衛星設計法を紹介してはどうかとの意見もあったが、ITARの制約から難しいと見送られた。

次に、Japan Forumの活動状況について、下名から、9月9日のJFSC総会時に示された03年度活動報告と04年度活動計画をとして説明した。盛りだくさんの活動内容とのコメントがあった。

次期ICSSC計画は、まず、Dr. Gargioneから、Ka and Broadband Communications Conferenceと共催されるICSSC-2005の説明があった。但し、2004年のKa and Broadband



Intelsat 本部

Communications Conferenceが9月末開催の為、ICSSC-2005と共催する2005年の詳細計画はこれが終了次第着手とのこと。欧州でブームとなっているSatNex dayについて、セッションとして取上げるのか、Colloquiumとしてとりあげるのか議論。ICSSC-2005

Colloquium ChairのDr. BousquetはColloquiumとしてとりあげる意向で

あるが、欧州内にて再度検討することになった。ICSSC-2005では、各地域のRegional Managerを選出。アジア地区はJEPICOの北爪氏との紹介があった。一方、大会参加登録費は約800ユーロを予定しており、かなり高額になっている。

ICSSC-2006について、Mr. HoustonからICeとの交渉が決着していないとの報告があった。ICeとの交渉が纏まらなると、AIAA単独にて開催することになる。本年12月末までに決着するようにとAIAA事務局のMs. Zookから強く言われているとのこと。

ICSSC-2006の開催成功が今後のICSSCの存続に大きな影響を与えることになる為、TCCS委員一同是非成功させようと言うことになった。

ICSSC-2007の日韓共催の準備状況について、9月3日のJFSC/APSC間の打合せ内容を含め、下名より報告。APSCと韓国政府の調整結論を待って、本格的に活動を開始する。日本側は大会委員長としてNICT鈴木部門長、プログラム委員長NTT梅比良部長、コロキウム委員長ATR門脇室長を選出済みである旨を説明。また、ICSSC-2007のTCCSコロキウム委員長はATR門脇室長に兼任して貰いたいとの意向があった。GWUのHelm教授が全面的にサポートするとのこと。また、Mr. CurtinからはコロキウムにてTCCSの資金集めに協力して欲しいとの依頼があった。韓国の会場費は日本より安い、米国のように無料にならない為、この費用次第と回答。



TCCS 委員会の様子

Mr. CurtinからTCCSの財務報告があった。たった2行の報告書とはいえ、財務報告を受けるのは下名がTCCS委員に就任して以降初めての出来事。保有資産は約4万ドルとかなりの額。また、ICSSC-2004のコロキウムにて約7千ドルの収入を得ている。現在の資産を有効活用する方法として、例えば、学生からの論文コンテストを行い、優秀賞として大会参加の航空券を支給することなどが提案された。有効活用について各委員が提案することとなった。

最後に、次回TCCS委員会を05年1月10-13日米国ネバダ州リノ市にて開催することを決

め、会議は閉会。

この後、Intelsat側の好意により、Intelsat本部の通信制御室と衛星運用管制室を見学させて貰った。Intelsatは現在28基の衛星を運用しており、通信制御室は下図の通り、運用に携わる人の姿が見えたが、運用管制室は自動化が進んでおり、殆ど人影が見えなかった。



Intelsatの衛星運用管制室



Intelsatの通信制御室

1980年代からIntelsat本部を訪問しているが、今回、特に、本部内の人が減っていると感じた。以前はConnecticut AvenueのInternational Zooとまで言われ、各国の民族衣装を纏った人々が闊歩していたが、そのような光景も無く、時の流れを感じさせられた。

以上